

倶知安町民の男女平等に関する意識調査結果

1 調査目的

倶知安町において、すべての町民が性別意識にとらわれず、その個性と能力を十分に発揮して、男女が平等に参画するまちをつくるため、平成 17 年 4 月に「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例」が制定され、これを実現するための推進プランをつくることが義務付けられた。推進プランを策定するにあたり、平成 17 年度に 18 歳以上の町民を対象に、アンケート調査を行った。前回調査から 7 年目に当たる本年度、町民の男女平等参画社会に関する意識の実態を把握する基礎資料とするため、アンケートを行う。

2 調査方法

- ・対象 町内に在住の 18 歳以上の男女
- ・調査時期 平成 24 年 9 月 1 日～10 月 31 日
- ・対象団体 町内 8 団体
 - ①倶知安町人権擁護委員協議会 11 枚配布
 - ② J A ようてい 30 枚配布
 - ③消費者協会 155 枚配布
 - ④倶知安厚生病院 330 枚配布
 - ⑤後志総合振興局 420 枚配布
 - ⑥倶知安町役場 280 枚配布
 - ⑦自衛隊 259 枚配布
 - ⑧建設業協会 140 枚配布
- ・配布枚数 1,625 枚
- ・調査方法 各町内団体、事業所を対象に調査用紙を配布、後日事務局が回収

3 調査項目

- ・男女の地位に関する意識
- ・役割分担意識
- ・家庭生活に関する意識について
- ・男女平等参画社会に関する意識について

4 調査項目数

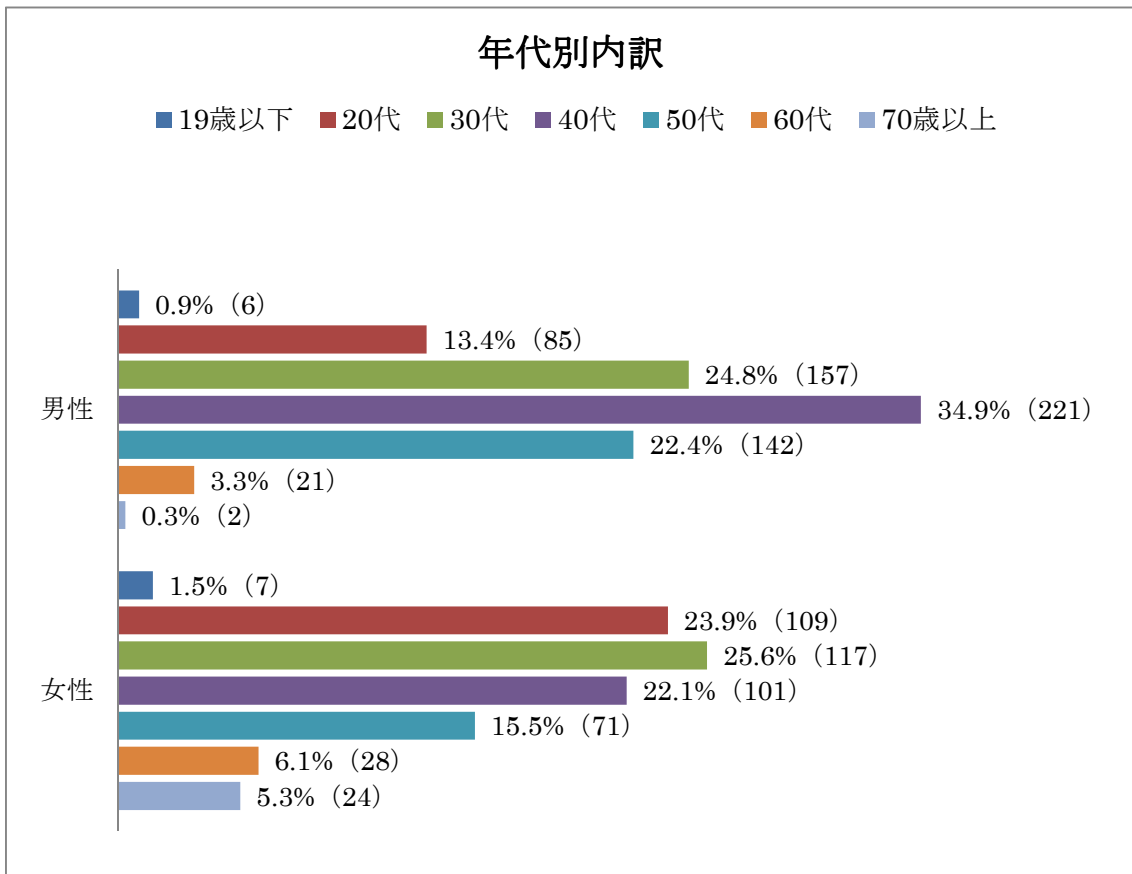
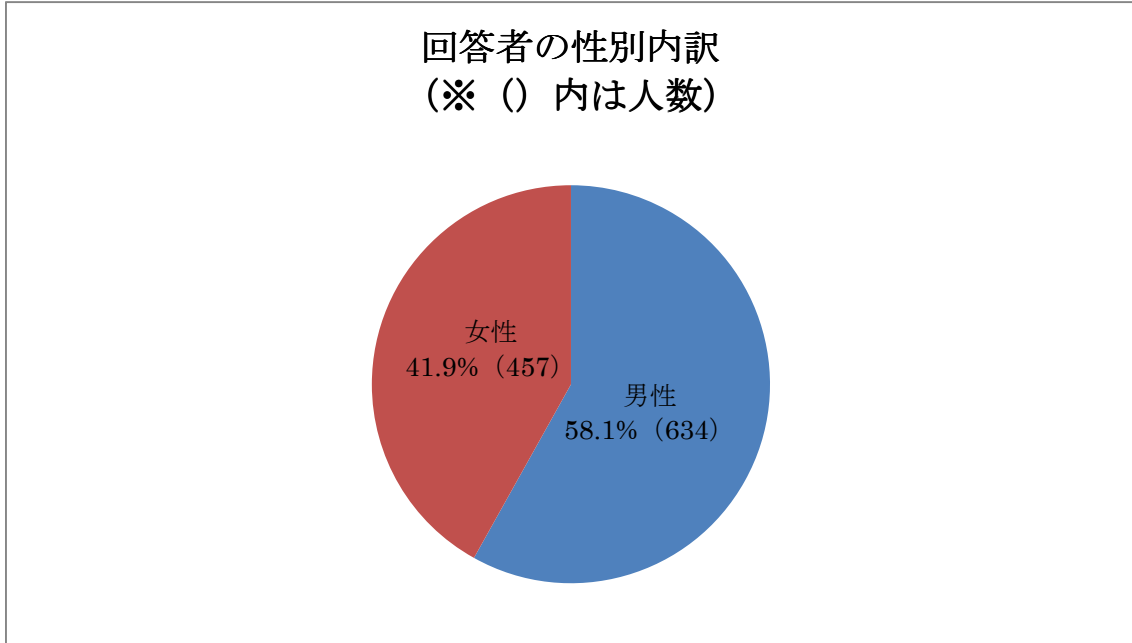
22 問

5 回収結果

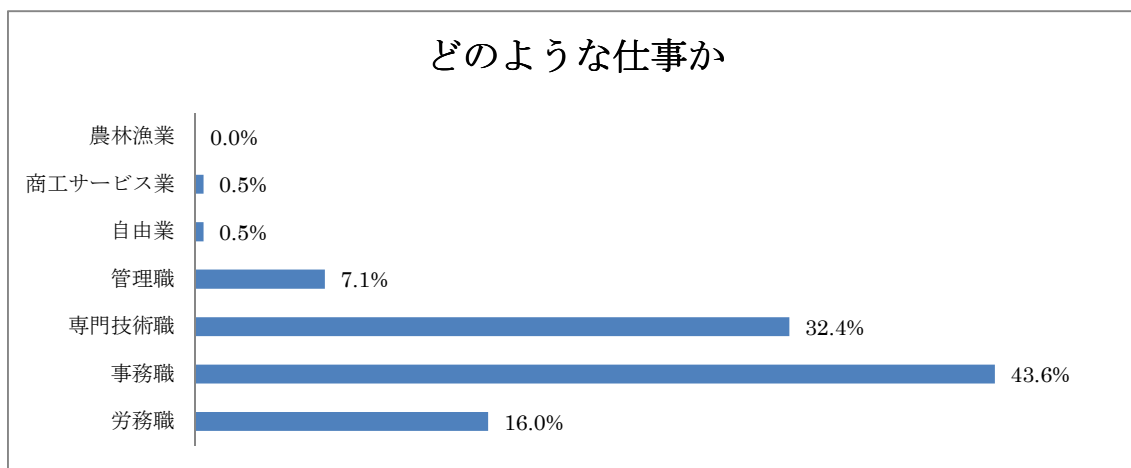
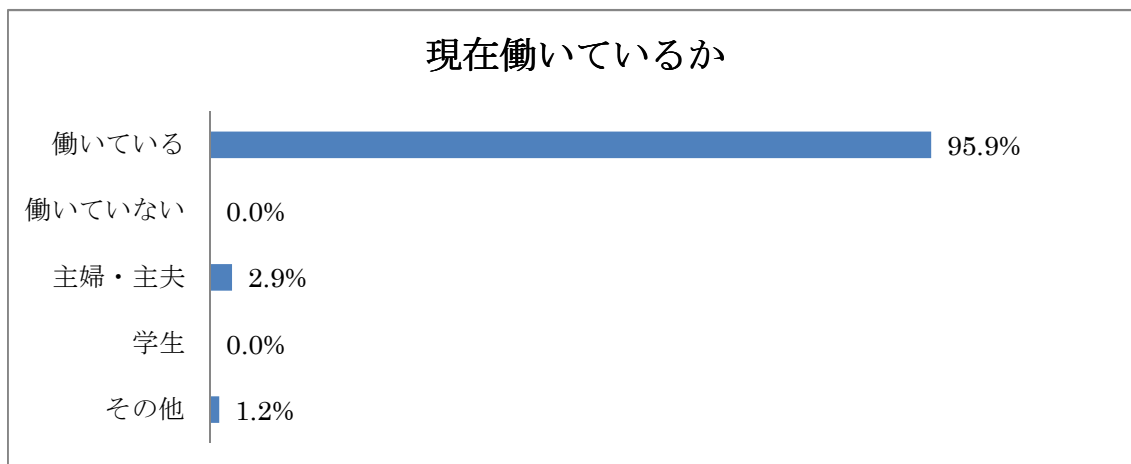
配布枚数 1,625 枚 有効回収数 1,091 枚 回収率 67.1%

6 男女・年代別回収結果

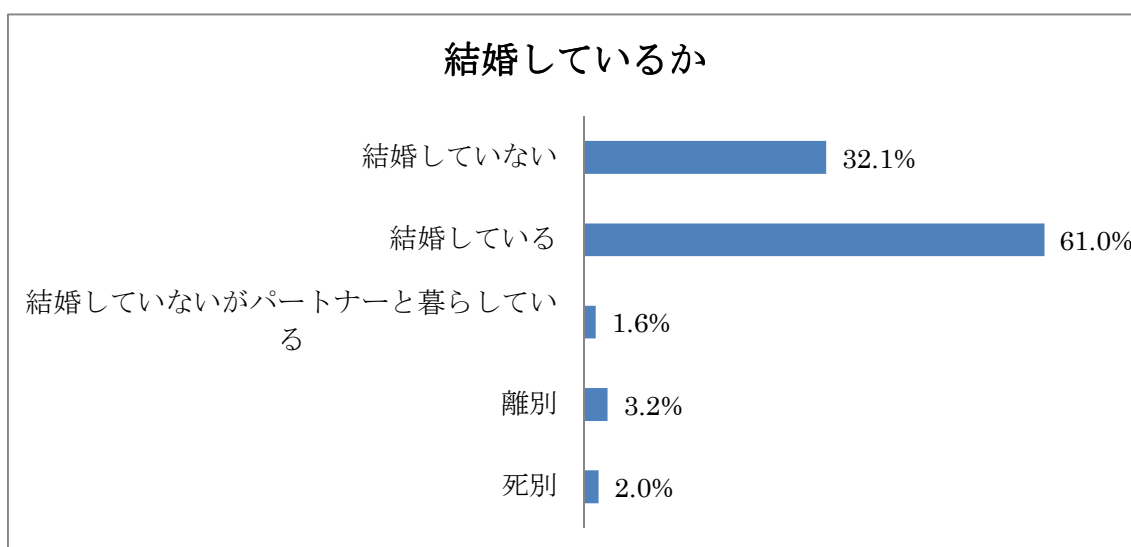
○性別内訳・年代別内訳



○現在働いているか、どのような仕事か



○結婚しているか



アンケート結果考察

1 男女の地位に関する意識について

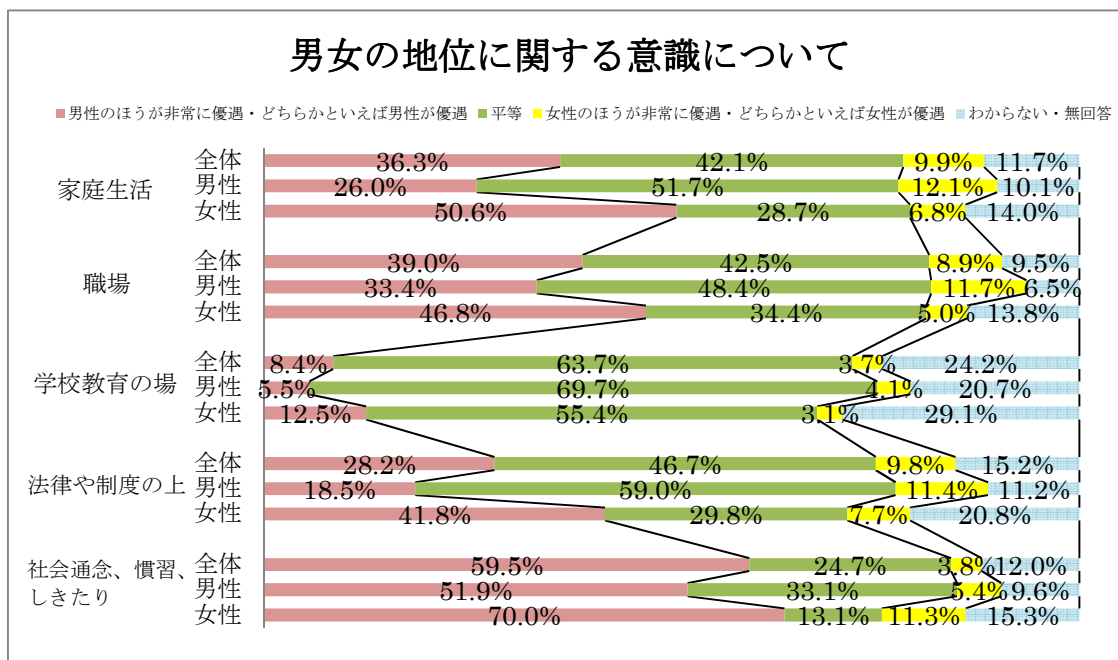
問 あなたは、以下にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとに、あなたの気持ちに最も近いものに○をつけて下さい。

各分野における男女の地位の平等感について、「平等」と答えた人の割合は、「家庭生活」42.1%、「職場」42.5%、「学校教育の場」63.7%、「法律や制度の上」46.7%、「社会通念、慣習、しきたり」24.7%となっている。「家庭生活」、「職場」、「法律や制度の上」「社会通念、慣習、しきたり」の4つの分野において、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と答えた人の割合が、「女性の方が優遇されている」（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）と答えた人の割合を大きく上回っている。

「学校教育の場」では、「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、前述の4つの分野より低くなっている。

男女別に見ると、すべての分野において「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、女性の方が高くなっている。「家庭生活」、「職場」、「法律や制度の上」の3つの分野については、男性は「平等」と答えた人の割合が、「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合よりも高かったことに対して、女性では「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は「平等」と答えた人の割合を大きく上回っていた。また、男女ともに「学校教育の場」においては「平等」と答えた人の割合が最も高く、「社会通念、慣習、しきたり」においては「平等」と答えた人の割合は最も低かった。（図表 1-1）

図表 1-1

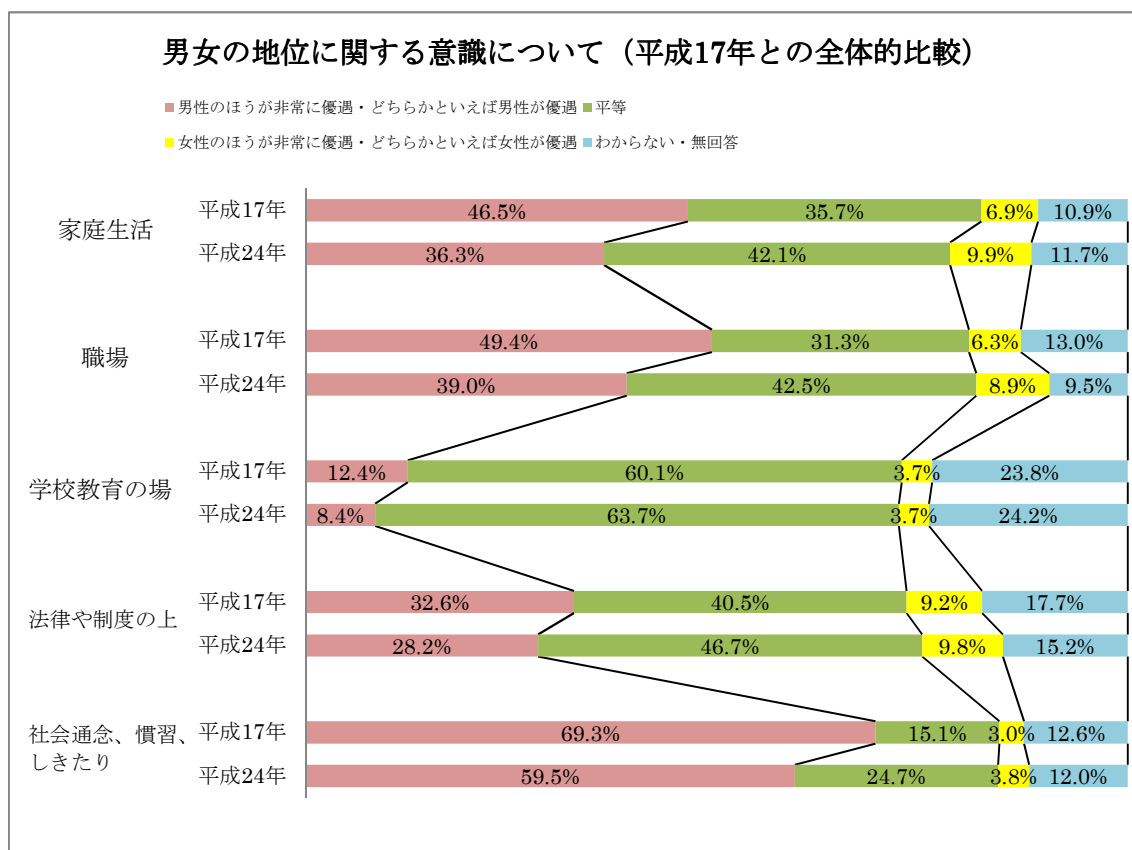


男女の地位に関する意識について、平成17年の調査と比べると、すべての分野において「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は低くなった一方で、「平等」と答えた人の割合は高くなっている。特に、「家庭生活」「職場」「社会通念、慣習、しきたり」の分野において「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が10%前後低くなっており、平成17年の調査との差が目立つ結果となった。

また、「家庭生活」、「職場」、「法律や制度の上」、「社会通念、慣習、しきたり」の4つの分野においては、「女性の方が優遇されている」と答えた人の割合は高くなっている一方で、「学校教育の場」においては、平成17年時の調査結果との差はなかった。

以上より、5つすべての分野において平成17年よりも男女が平等であると感じる人が増加していることがわかった。(図表1-2)

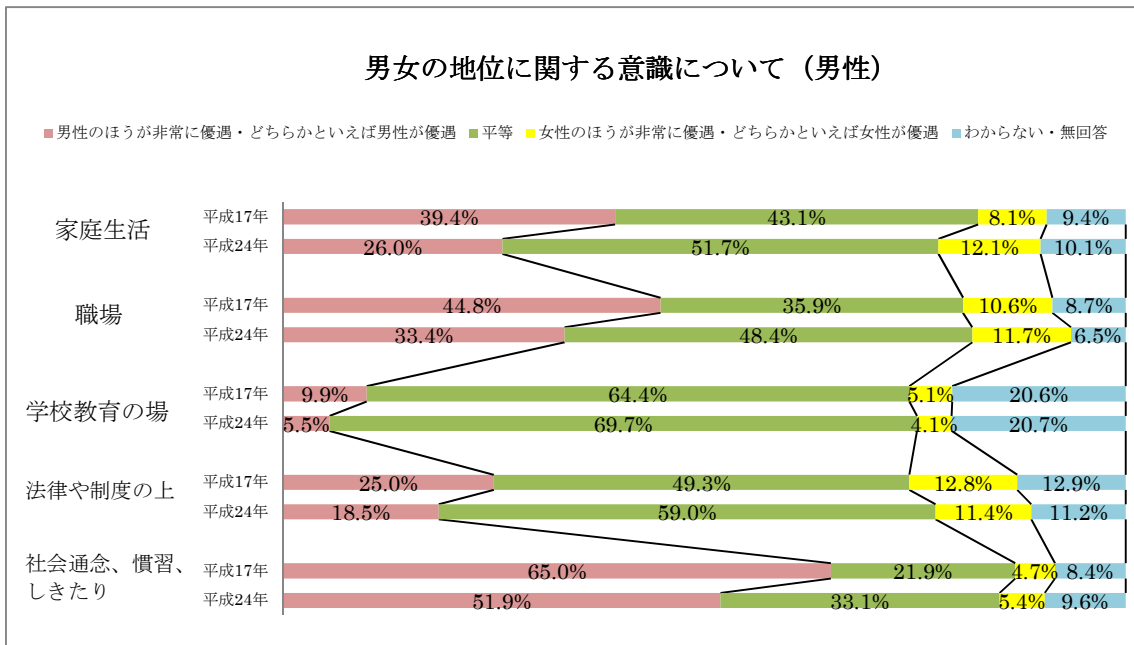
図表 1-2



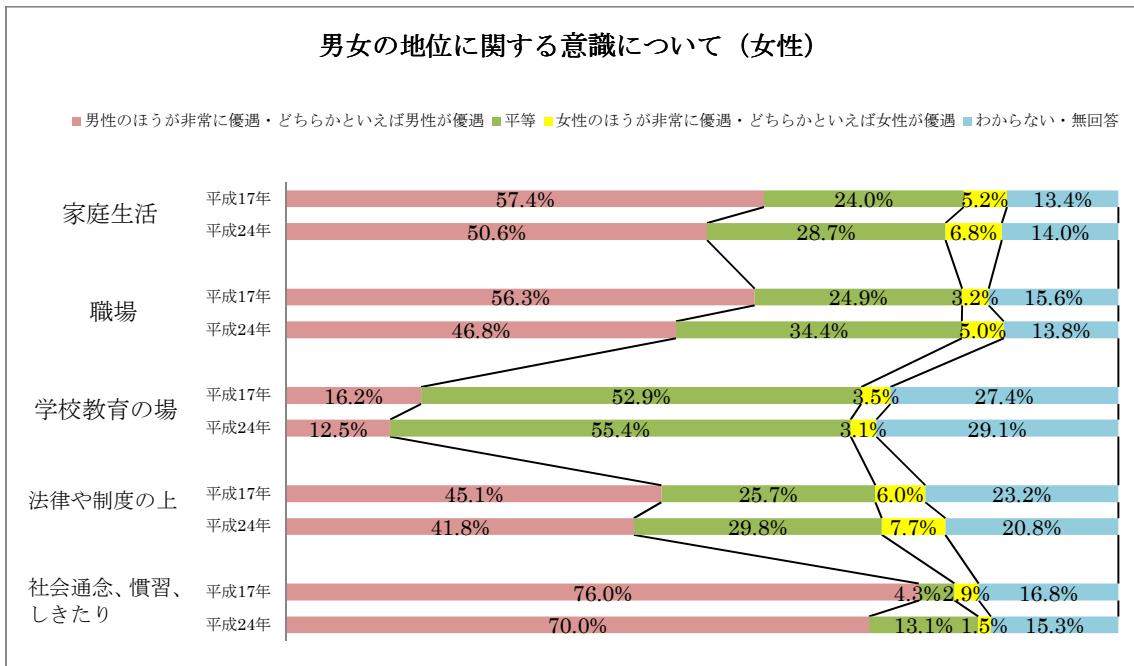
男女別に平成17年度の調査と比較すると、5つすべての分野において「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合の減少の振れ幅は、女性よりも男性の方が大きく、「平等である」と答えた人の割合の増加の振れ幅も女性より男性の方が大きかった。

このことから、男性の方が女性よりも、すべての分野において男女が平等であると感じる人が増加していることが分かった。(図表1-3、1-4)

図表 1-3



図表 1-4



2 男女の役割分担意識について

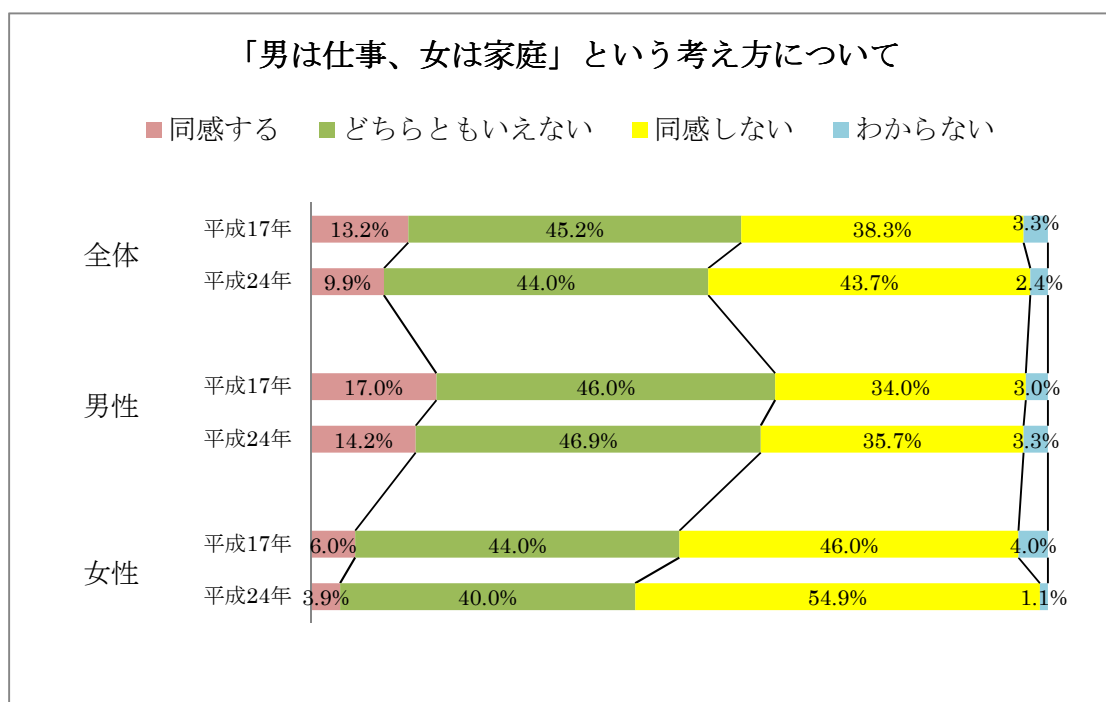
問 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しますか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない」と回答した人の割合は、「同感する」と答えた人の割合を大きく上回った。

男女別では、「同感する」と答えた人の割合は、男性の方が高く、「同感しない」と答えた人の割合は男性と比べ女性の方が大きく上回った。

平成17年度の調査と比較すると、「同感する」と答えた人の割合は男性では2.8%、女性では2.1%低くなっている。「同感しない」と答えた人の割合は、男性では1.7%、女性では8.9%上昇しており、女性の社会進出の増加率を反映する結果となった。(図表2-1)

図表 2-1

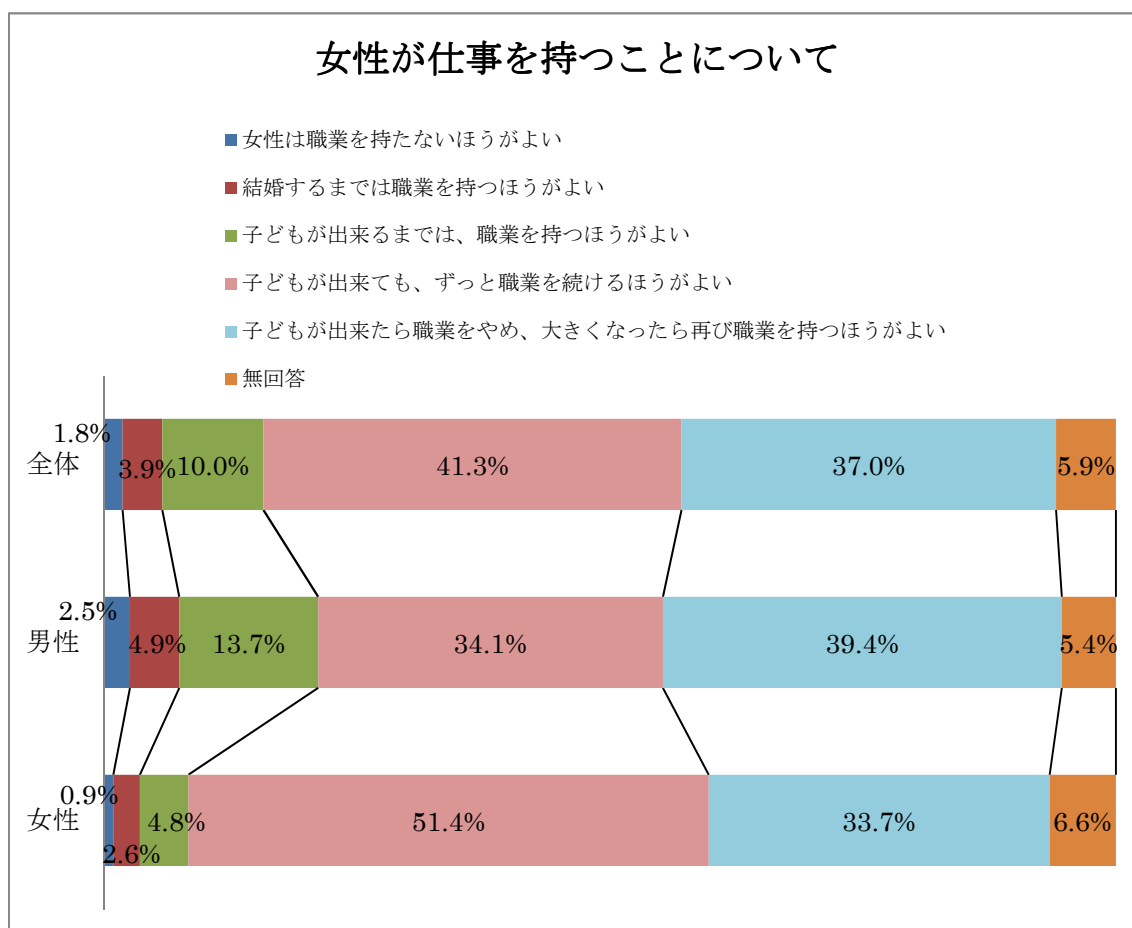


問 あなたは女性が仕事を持つことについてどう考えますか。

女性が職業を持つことについて、「子どもが出来ても、ずっと職業を続けるほうがよい」と答えた人の割合が 41.3%で最も高く、次いで「子どもができれば、職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と答えたひとの割合が 37.0%などになっており、出産前後で就業を継続する否か等の点で違いはあるが、子どもを持ちながら働くほうがよいとする割合は全体の 7 割以上となっている。

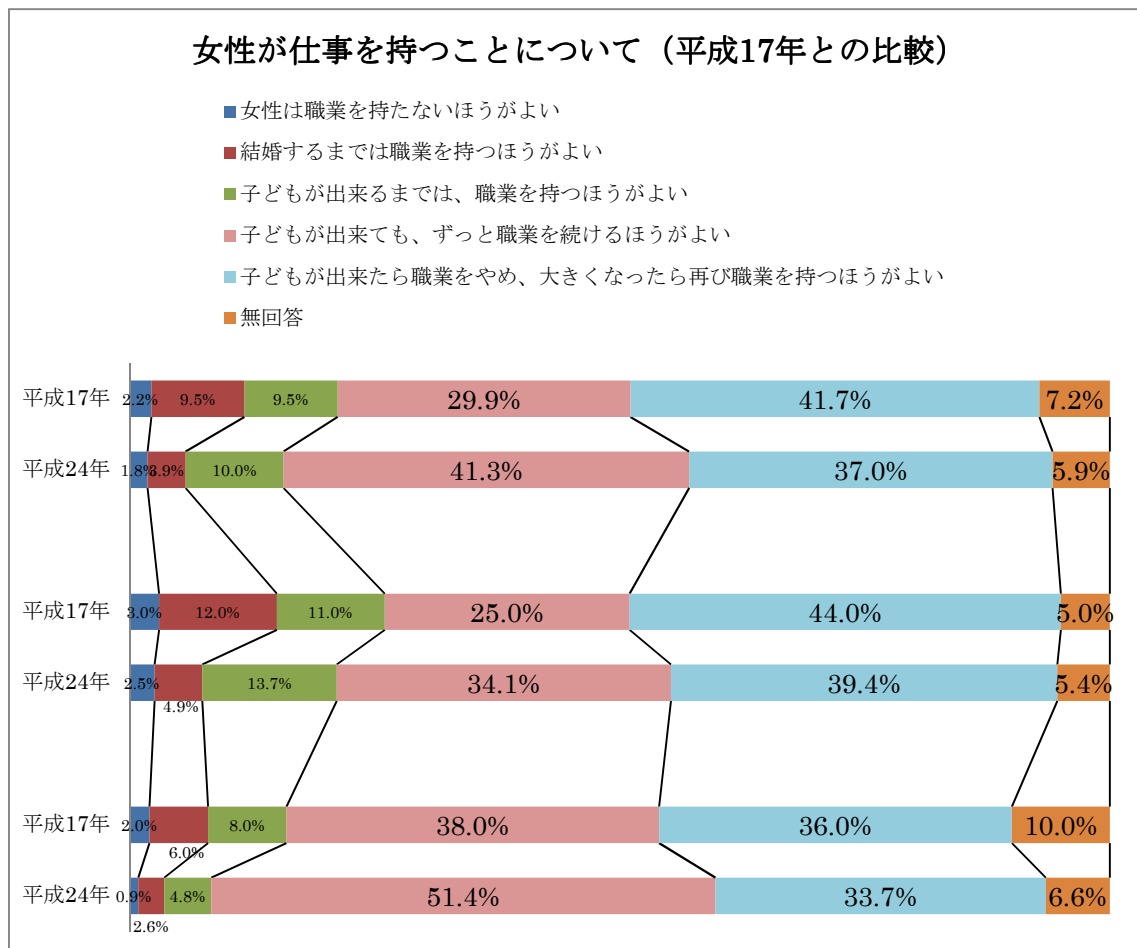
男女別にみると、「子どもが出来ても、ずっと職業を続けるほうがよい」と答えた男性は 34.1%で、女性は 51.4%と女性が大幅に高くなっている。「子どもが出来たら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と答えた男性は 39.4%で、女性は 33.7%と男性の方が高くなっている。男性では、子どもを持ちながら働くことは良いとする回答が、全体の 73.5%に対して、女性では 85.1%と男女間で違いがみられた。(図表 2-2)

図表 2-2



平成 17 年度の調査と比較すると、「子どもが出来てもずっと職業を続けるほうがよい」と答えた人の割合は高くなっており、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は低くなっている。(図表 2-3)

図表 2-3



3 結婚・家庭・離婚についての考え方

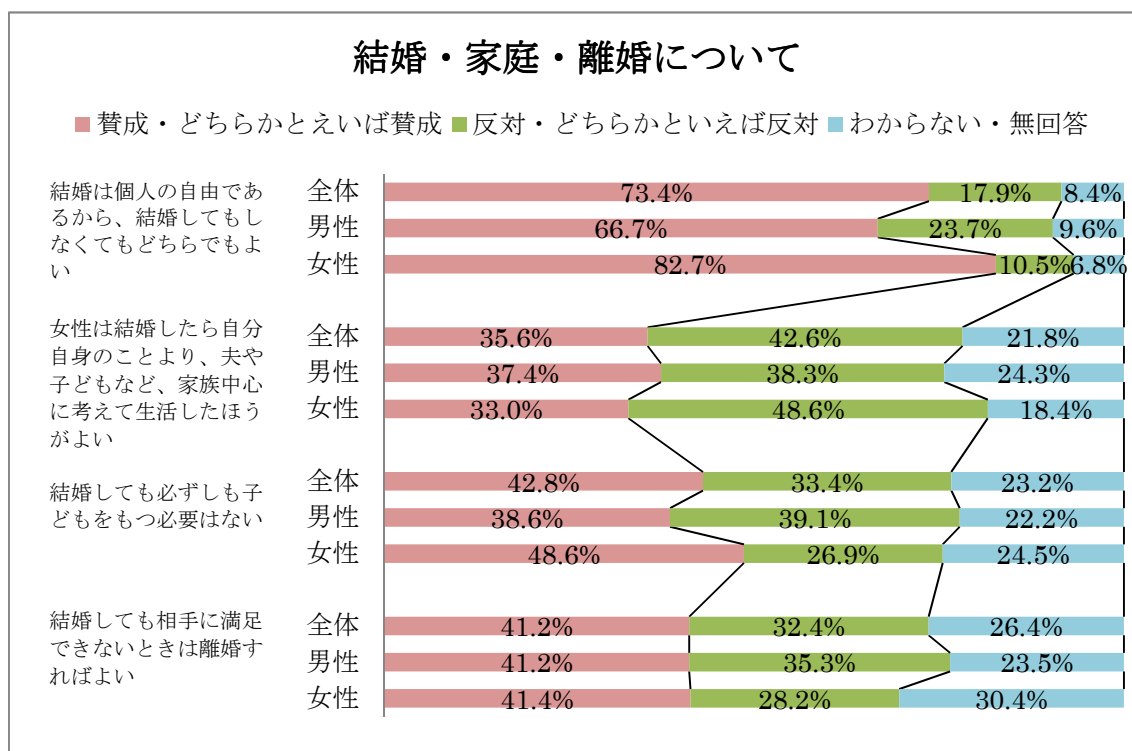
問 結婚、家庭、離婚についてあなたのご意見をお伺いします。

結婚・家庭・離婚についての考え方においては、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について、賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が 71.4%と最も高かった。「女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい」という考えた方について、反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が 42.6%と最も高かった。「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について、賛成が 42.8%と最も高かった。「結婚しても相手に満足できない場合は、離婚すればよい」という考え方について、賛成が 41.2%と最も高かった。

男女別では、「結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について、賛成と答えている人の割合は女性の方が男性よりも 16%高かった。「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方については、賛成と答えている人の割合は、女性の方が男性よりも 10%高かった。

「女性は結婚したら自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」という考え方については、反対と答えた人の割合は女性の方が男性よりも 10.3%高かった。（図表 3-1）

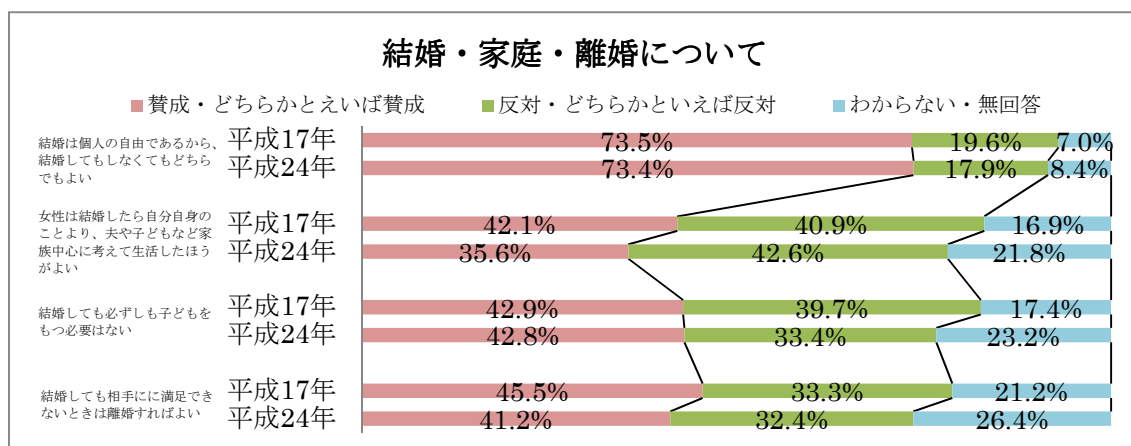
図表 3-1



平成17年度の調査と比較すると、「女性は結婚したら自分自身のことより、夫や子ども等家族を中心に考えて生活したほうがよい」という意見について、「賛成・どちらかといえば賛成」と答えた人の割合が6.5%低かった。

その他の事項については、大きな差はなかった。(図表3-2)

図表3-2

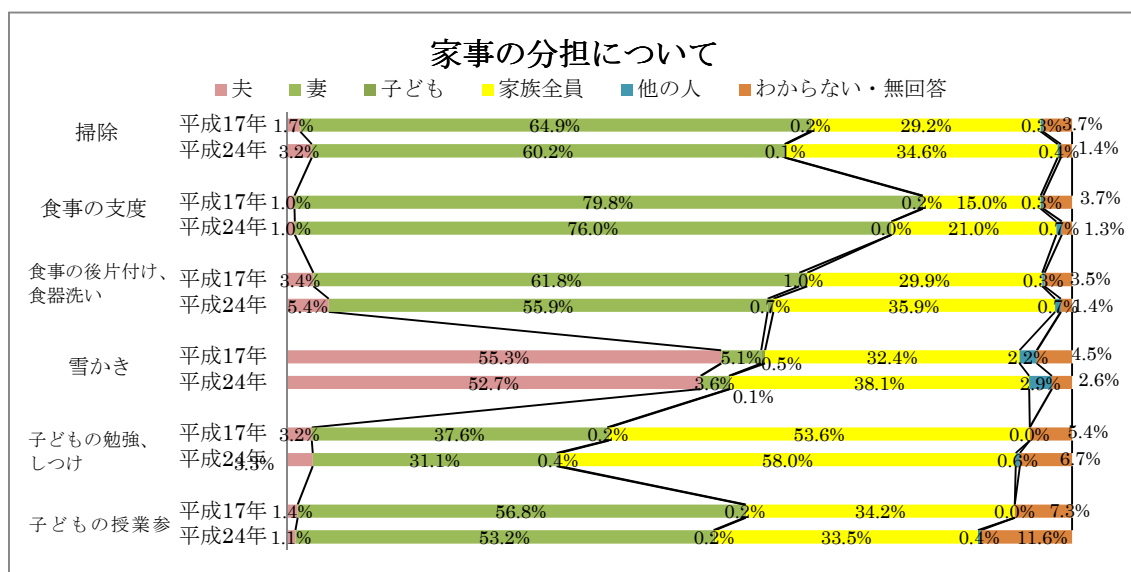


問 あなたの家庭では、これあげるような事柄を、主に誰が分担していますか。

家事の分担について、「掃除」、「食事の支度」、「食器の後片付け、食器洗い」、「子どもの授業参観」の4つの項目において、妻が行っていると答えた人の割合が圧倒的に高かった。一方、「雪かき」の項目においては夫、「子どもの教育、しつけ」の項目においては、家族全員で行うと答えた人の割合が最も高かった。

平成17年度の調査と比較すると、すべての項目において「妻が行う」と答えた人の割合が低くなる一方、「家族全員で行う」と答えた人の割合は高くなっている。(図表3-3)

図表3-3

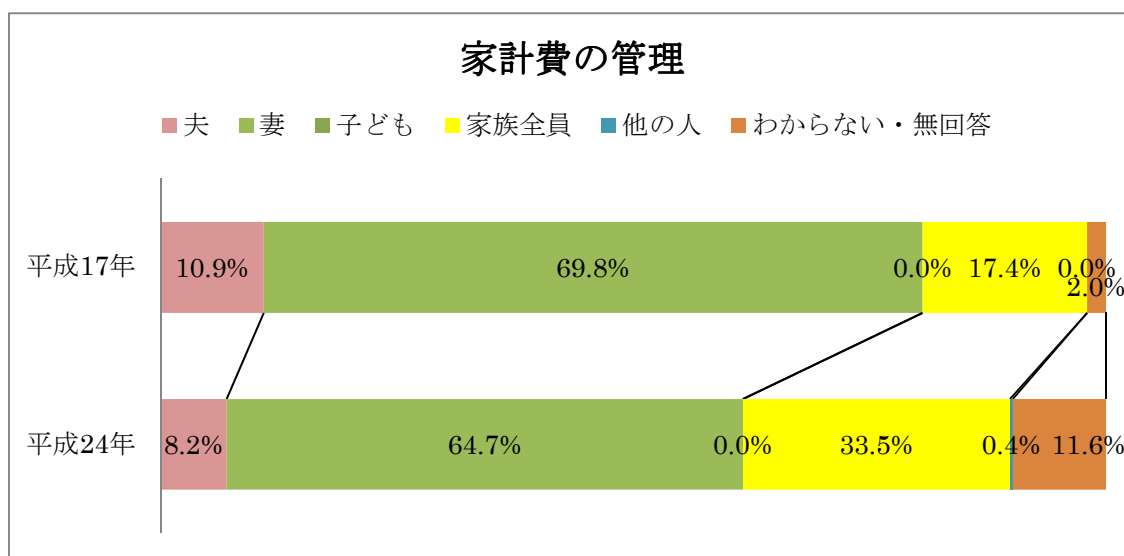


問 あなたの家庭では次のことを最終的に決定するのはどなたでしょうか。

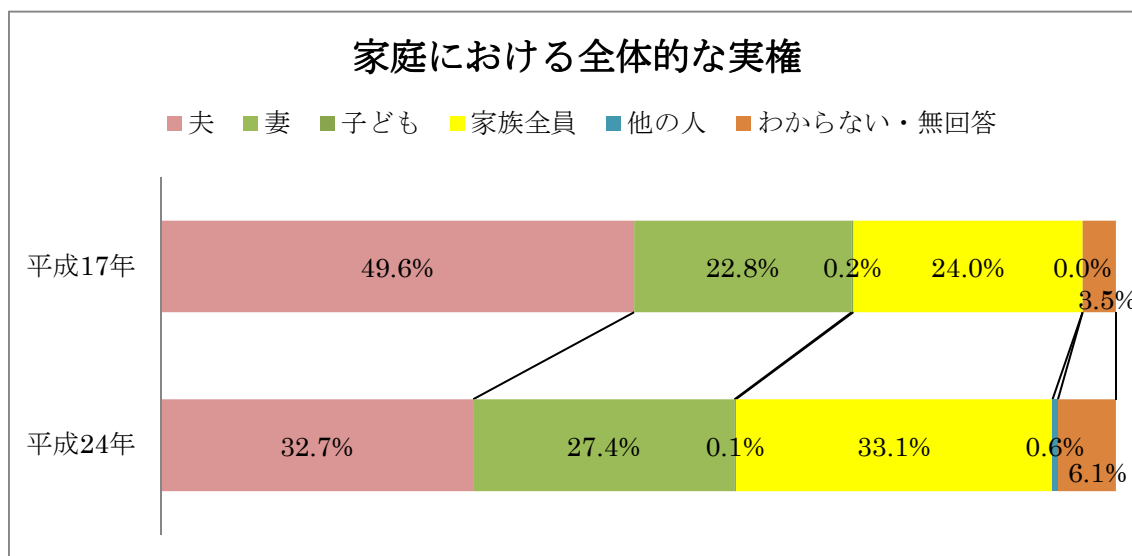
「家計費の管理」については、「妻」が管理すると答えた人の割合が64.7%で最も高かった。「家庭における全体的な実権」については、「夫」と答えた人と「家族全員」と答えた人の割合はほぼ等しかった。平成17年度の調査と比較すると、「家計費の管理」については、「夫」、「妻」と答えた人の割合は低くなっている一方で、「家族全員」と答えた人の割合は高くなっている。

「家庭における全体的な実権」については、「夫」の割合が低くなっている一方で、「家族全員」と答えた人の割合は高くなっている。(図表3-4、3-5)

図表 3-4



図表 3-5

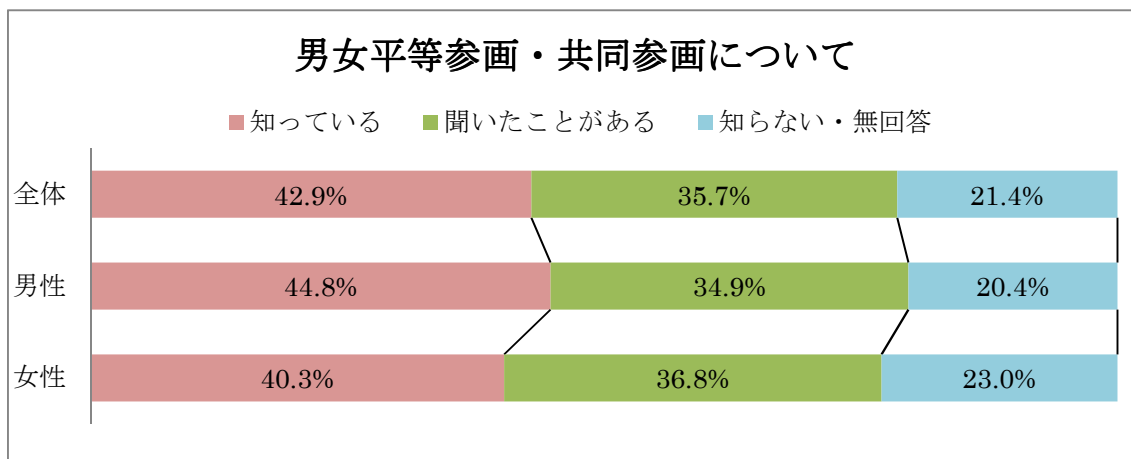


4 男女平等参画社会に関する意識について

問 あなたは、「男女平等参画」「男女共同参画」という言葉を知っていますか。

男女平等参画・共同参画について「知っている、もしくは聞いたことがある」と答えた人は全体の78.6%だった。男女別に見ると、「知っている、もしくは聞いたことがある」と答えた人の割合は男女ともに大きな差はなかった。(図表4-1)

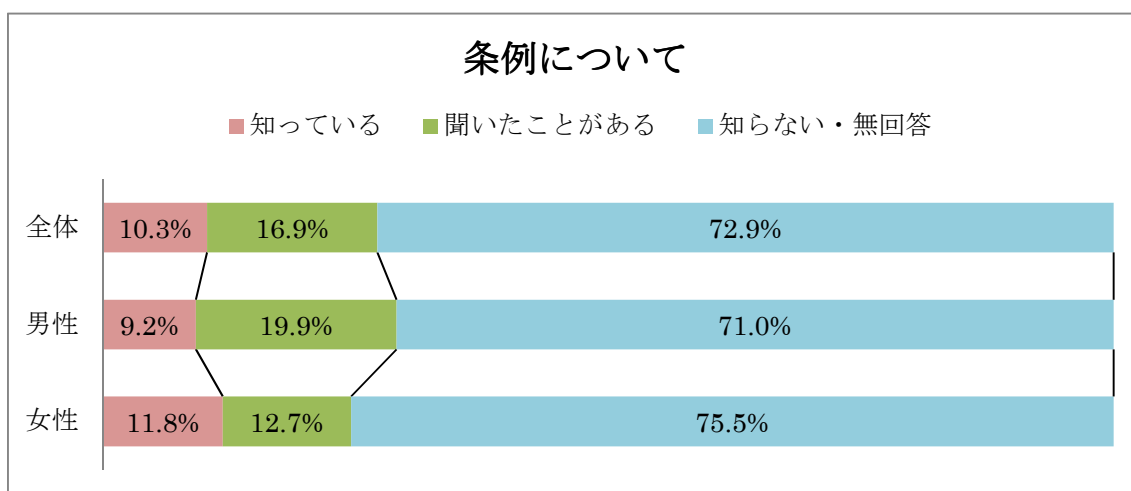
図表4-1



問 倶知安町において、平成17年4月に「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例」が制定されたことを知っていますか。

「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例」が制定されていたことを知らないと回答した人の割合は全体で72.9%だった。男女別に見ると、女性の方が男性よりも「知っている・聞いたことがある」と答えた人の割合は4.6%低かった。(図表4-2)

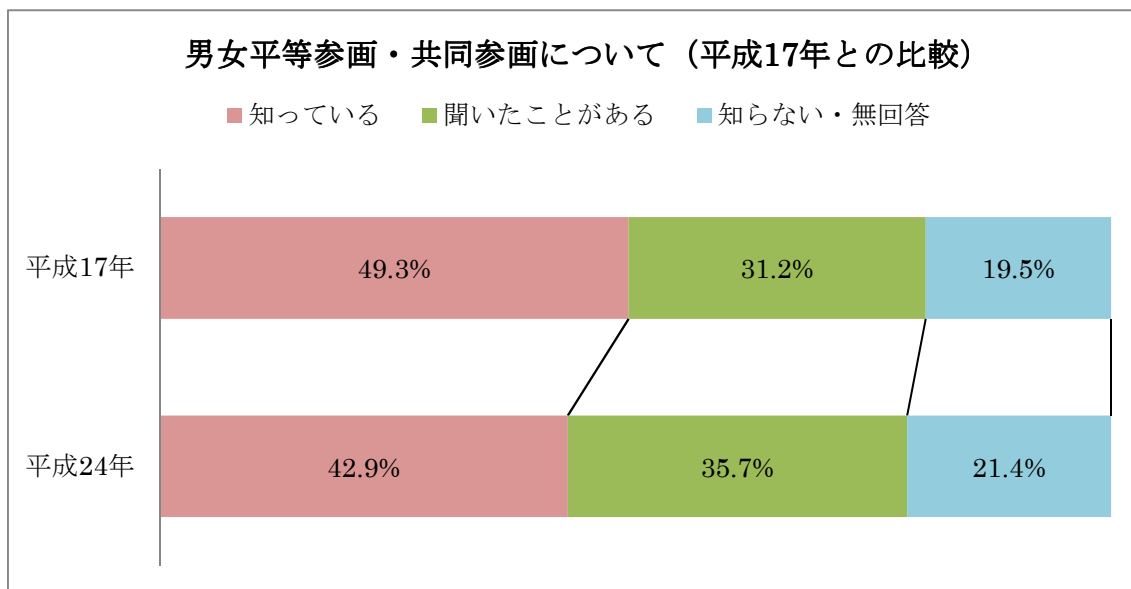
図表4-2



平成 17 年度の調査と比較すると、「男女平等参画、男女共同参画」という言葉を知っていると答えた人の割合は低くなっている。

また、条例については「知っている」、「聞いたことがある」と答えた人の割合は低くなっている一方、「知らない」と答えた人の割合は大幅に高くなっている。(図表 4-3、4-4)

図表 4-3



図表 4-4

